

8112 アメリカの文明史家バースティンにいわせると・・・

アメリカの文明史家バースティンにいわせると、有名人は、マスコミが作った人間的疑似エベント（出来事）であるという。大衆は常に自分の理想像としての英雄を求めているが、現代では、英雄が消滅してしまったので、その代用品として有名人が作り出された。しかし、有名人は英雄という実在とちがって、大衆自身の幻影にすぎないから、有名であるということ以外に何の実質も必要としないというのである。

百目鬼恭三郎（どうめききょうざぶろう）『没価値の時代』（朝日新聞）

[許容訳例]

Boorstin, American historian of civilization, say that “famous persons” are pseudo-event made by the mass media. Ordinary folk are always seeking heroes as their own ideals, but since heroes are extinct in our time, famous people are created as substitutes. However, big names, unlike the reality of heroes, are only illusions created by people themselves, so they do not need any substance apart from being famous.

[翻訳例]

According to the American social historian Boorstin, the “celebrity” is a human pseudo-event created by the mass communication media. The common man is always looking for heroes to serve as his ideal, but heroes today are a vanished race, so celebrities were created as a substitute for them. The celebrity, however, unlike the reality that is a hero, is no more than an illusion cherished by the common man himself, and as such needs no substance other than his fame.

■アメリカの文明史家バースティンにいわせると、有名人は、マスコミが作った人間的疑似エベント（出来事）であるという。（8112）

◆冠詞

★「アメリカの文明史家バースティン」ですが、「文明史」(history of civilization)という言い方はありますが、「文明史家」はありません。an American historian of civilization で通じるし、an American social historian でも通じると思います。前にも出てきましたが、ここでも冠詞によってニュアンスが変わります。Boorstin, the American social historian は「一応みんなが知っているだろうアメリカの文明史家バースティン」ということです。これでもいいですし、American social historian Boorstin でもかまいません。これに定冠詞を付けて the American social historian Boorstin とすると the (well-known) American social historian whose name is Boorstin ということになりますし、Boorstin, an American social historian は Boorstin, who is an American social historian という感じになって改めて相手に知らせることになります。

★「・・・にいわせると」は say that…でも通いますが、according to…の方がいいと思います。

★ 「有名人」は famous persons でもいいですが、ここでは celebrity が一番ぴったりです。celebrity というのは、有名人という意味に違いないのですが、特にマスコミが作り出した有名人（俳優など）に対して使う言葉です。celebrities と複数で使ってもいいのですが、「有名人というもの」というニュアンスを含ませて the celebrity とすることもできますし、「いわゆる」という意味を含んでいますから引用符で囲ってもいいです。なお、辞書には a man of distinction も出ていますが、これは何かの分野において著名な人のことです。また、nobility; a noble も出ていますが、これは社会的地位から考えて著名な人ということで、現在はまず使われません。a big name は俗語的で、しかも He is a big name. のように predicate として使うのが普通です。

★ 「マスコミ」の元は mass communication なのですが、「マスコミ」は日本語です。英語として使うなら the mass communication media か、あるいは the mass media です。

★ 「作った」は made by…でもいいのですが、ここでは「作り出された」という意味を含みますから created by…の方がいいでしょう。

★ 「人間的疑似イベント（出来事）」は human pseudo-event です。「疑似イベント」(pseudo-event)は(Daniel J.) Boorstin が 1961 年に出版した *The Image: A Guide to Pseudo-Events in America* ではじめて使用した造語で「本物らしく装って作り上げられた出来事・催事」のことです。

● 「連体修飾節 + 不定代名詞的体言」（マスコミが作った人間的疑似イベント（出来事））

ここは「名詞(human pseudo-event) + 関係詞節(which is created by the mass (communication) media)」です。which is は省略することが出来ます。

■ 大衆は常に自分の理想像としての英雄を求めていたが、現代では、英雄が消滅してしまったので、その代用品として有名人が作り出された。(8112)

★ 「大衆」は ordinary folk[people]あるいは the common man など。辞書には the masses も出ています。文法的には問題ないのですが、何となく軽蔑の感じが含まれます。

★ 「常に」は always でいいでしょう。

★ 「自分の理想像」は ordinary people[folk]を主語にするなら their ideals でしょう。the common man なら his ideal です。

★ 「・・・としての」は as でもいいのですが、「(・・・としての)英雄」との関連性が希薄なので to serve as…としたいです。

★ 「(英雄を)求めている」は be looking for (heroes)か、あるいは be seeking (heroes)です。なお、be seeking for…にすると「特に具体的に探す」という意味になってしまふので for は不要です。

● [が]

この [が] は but でいいでしょう。

★ 「現代では」は today とか in our time でいいでしょう。

★ 「英雄が消滅してしまった」は heroes are extinct とか、have disappeared; have vanished

などです。なお, *are no more* も可能ですが, 少し poetic です。また, *have died out* は自然消滅という感じですが, *extinct* と同じように使っていいかもしれません。

● [ので]

[ので] は *since* がいいでしょう。*as* はいろいろな意味で使われて, 先まで読まないとどういう意味で使ったなかわからないので *since* にしたくなるのです。

★「その代用品として」は *as a substitute [substitutes] for them* ですが, *in place of* (代用として) *them* と表現することもできます。

◆現在時制・過去時制・現在完了など

「有名人が作り出された」は(famous people) *are made* は弱いので *are created* の方がいいでしょう。ところで, 現在の状態を述べるなら *are created* でもいいですが, 日本語が「作り出された」となっているので, 単なる過去の事実を伝えるなら *were created* にしてもいいですし, 日本語の「た」には完了も含まれるので *have been created* も可能です。現在完了は現在という時点から見た過去のことですから「・・・が過去にあって, そして今ご覧のような状態だ」という意味になります。

■しかし, 有名人は英雄という実在とちがって, 大衆自身の幻影にすぎないから, 有名であるということ以外に何の実質も必要としないというのである。 (8112)

● [しかし]

[しかし] の意味で *but* を文頭に使うのは好ましくありません. *however* です. *but* を文頭で使うと, 「しかし」ではなく「ところで; そうではなくて; では」など, 話題の転換を意味するからです。

★「有名人」は, *famous persons* とか *the celebrity* が一番ぴったりと前に書きましたが, 「実在とちがって」の意味を強調, つまり「名だけの有名人」のニュアンスを出すためには *big names* を使うのも一つの方法です。

◆同格の that 節

「英雄という実在」は, *the reality that is a hero* でしょう。ただし, この同格の *that* は使い方が難しく, 同格の *that* 節を導く名詞は *belief; decision; fact; fear; idea; news; proof; rumor; story* などとその類語に限られています。江川氏は『英文法解説』の p.24 に「どんな名詞が that-節を従えて同格になるか」という問題があるが, 幸いこれは *BBI (The BBI Contemporary Dictionary of English, Amsterdam/ Tokyo (John Benjamins/ Maruzen), 1986)* が手ごろな参考資料として利用できる。同書には該当する名詞に表示がついていて, 丹念に数えた人の話では全部で約 180 語あるそうである.」と解説しています。因みに, ランダムハウス英語辞典には *the news [*letter]* *that he would come soon* (彼がすぐ来るという知らせ) という例が示してあります。

● 「分詞構文」の感覚

「(有名人は英雄という実在) とちがって・・・」の「とちがって」は, 前置詞 *unlike* を使って *the celebrity, unlike the reality that is a hero, …*とするのが一番です。文構造的には

the celebrity, (being) different from the reality that is a hero, …も可能ですが、分詞構文は接続の内容が非常に曖昧で、この形に訳すと日本語特有の「連体修飾節+体言」(英雄という実在と違う有名人は・・・)に対応したようになってしまいます。

★「大衆自身の幻影」は「大衆が勝手に作った幻影」であることを強調するために「自身」が加えられたものと解釈することが出来ますが、そもそも「幻影」をどのようにとらえるかが問題になります。「現実には存在しないものを作りするかのように思い違いしたり、心象や概念を抱くこと」(illusion)と解釈するか、「自分もあなりたいという望みがあるから実在しないものを勝手に作り上げて、それを敬うこと」(reflection)と解釈するかです。荒っぽく言うと「大衆が頭の中で作り上げたもの」か「ある対象を基に作り上げたもの」かです。ここでは illusion を使って an illusion created by people themselves とか an illusion cherished by the common man himself とします。

★「・・・にすぎない」は only でもいいし、no more than を使ってもいいと思います。

● [から]

[(すぎない) から] は [(すぎない) ので] として so を使ってもよいし、今言ったことをもう一度強調するように and as such (そして、そのようなものとして) (=and, being an illusion, …) を使うことも出来ます。

◆except と except for に関して

★「(有名であるということ) 以外に」の「以外に」は、「必要としない」という否定文の文脈の中なので except for は使わない方がいいのです。ここでは apart [aside] from (being famous) とか other than (his[their] fame) です。前に否定語があるときの except/ except for の関係について、辞書では触れていませんが、たとえば、「パンツ以外に何も着ていなかつた」ということを、読者にインパクトを与えるように書くなら、オーストラリアの推理作家 Carter Brown 風に I found her laying stark naked on the floor except for briefs. となります、ほぼ同じ内容をカナダの女流作家 Alice Munro 風に言い換えると I found her laying on the floor wearing no clothing except briefs. となります。アメリカの私の informant に確かめましたが、どちらもほぼ同じ意味だが印象・インパクトが異なるとのことでした。

★「何の実質も必要としない」は do not any substance とか need no substance です。ついでながら、(会話ではない) こういう文章の場合は don't というような省略形は使わない方がいいです。